

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解			2. 技能・表現				3. 思考判断/観望・倫理性									
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3					
24UPHM3106	英語	III	3	専門分野の言語使用を把握するため、専門用語の成り立ち、文章の構造、情報提示の様式等についての基本的事項を修得する。								○			◎						
24UPHM4107	発展英語	I	4	専門性の高い、一見難しそうな文書も、目的を持って読むことによって理解できる。本科目は、専門分野で英語を日常的に使用するための基本的技能を修得する。								○			◎			◎			
24UPHM1003	基礎化学		1	薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるために、原子の構造から分子の成り立ち、化学結合、代表的化合物、基本的な計算などに関する化学の基本的事項を修得する。											◎	○		○			
24UPHM1004	基礎生物		1	薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身につけるために、“生命活動の仕組み”に関する十分な知識と、それに裏付けられた“生命観”を修得する。	○								◎	○							
24UPHM1005	基礎数学・物理		1	薬剤師に求められる専門的知識を在学期間中に計画的に修得していくために、その前提となる数学および物理学の基礎的な知識および技能を修得する。												◎	○				
24UPHM1006	情報リテラシー		1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に修得する。										○		◎			◎		
24UPHM1007	薬学ゲートウェイ		1	高等学校での学びを基礎として、それを薬学部での6年間の学びへとつなげるために必要な、科学的なもの見方の基盤を形成する。												◎			○	○	
24UPHM1201	薬学への招待		1	本学で学ぶカリキュラムの構成を理解し、将来、医療を担う薬剤師として社会に貢献できるようにするために必要な心構えを身につけ、生涯にわたって自ら研鑽する使命を認識する。	○	○											○		◎	◎	◎
24UPHM1202	早期臨床体験		1	薬剤師が活躍する現場を体験することで、薬学科学生としての学習に対するモチベーションを高める。また、模擬的な環境で薬剤師の業務を体験することで、これからの学習の意義を理解する。	◎												○	○	◎	◎	○
24UPHM2301	医療倫理学		2	薬を通して医療に関わるものとして常に社会に目を向け、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるようにするために必要な心構えを身につける。	◎	○												○	◎	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解					2. 技能・表現				3. 思考判断/課題遂行性				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3							
24UPHM2405	分析化学Ⅱ	2	化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、化学物質の分析に用いる器具の使用法、得られる測定値の取り扱い、定量分析法および分離分析法に関する基本的事項を修得する。	1) 測定値の適切な取り扱い、分析法のバリデーションについて説明する。 2) 容量分析法（中和滴定、非水滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定）の原理、操作法および代表例を説明する。 3) 重量分析法の原理および操作法を説明する。 4) クロマトグラフィーの分離機構を説明できるとともに、薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーおよびガスクロマトグラフィーの特徴と検出法を説明する。 5) 電気泳動法の原理と応用例を説明する。				◎			○							○
24UPHM2406	分析化学Ⅲ	2	化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項とともに、臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。	1) 分光分析法（紫外可視吸光度測定法、蛍光光度法、赤外吸収スペクトル測定法、ラマンスペクトル測定法、原子吸光光度法、原子発光分析法）の原理および応用例を説明する。 2) 核磁気共鳴スペクトル測定法、質量分析法、X線分析法、熱分析法の原理および応用例を説明する。 3) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できるとともに、臨床分析における精度管理および標準物質について説明する。 4) 臨床分析で用いられる分析法（免疫化学的測定法、酵素を用いた分析法、画像診断技術）について説明する。				◎			○							○
24UPHM3407	薬学放射化学	3	放射線が健康に与える影響を科学的に理解するとともに、医療への応用を図るため、原子や放射線の性質、放射線の生体への影響に関する基本的事項を修得する。	1) 原子の特長を知るとともに、放射線の種類とその特長に関する知識を身につける。 2) 放射線が生体に及ぼす障害に関する知識を身につける。 3) 放射性医薬品や医療機器の原理および特長に関する知識を身につける。				◎	○	○								○
24UPHM1408	有機化学Ⅰ	1	薬学で取り扱う医薬品や生物活性物質の大部分は有機化合物である。有機化学の知識は、有機化合物の性質や反応性を理解するために必要である。本科目では、基礎的な有機化学の知識を修得する。	1) 化学結合や軌道の混成について説明する。 2) 代表的な化合物のルイス構造式および慣用名を示すことができ、IUPAC規則に基づいて命名する。 3) 酸と塩基、および官能基が及ぼす影響について説明する。 4) アルカンやシクロアルカンの配座、および構造異性体と立体異性体について説明する。 5) 光学活性・キラリティー・エナンチオマー・ジアステレオマー・ラセミ体・メソ体・絶対配置の表示法等について説明する。				◎			○							○
24UPHM1409	有機化学Ⅱ	1	本科目では、基本的な有機化合物を炭素骨格や官能基に基づいて分類し、それぞれの構造、性質、反応性に関する基本事項の知識を修得する。	1) 有機ハロゲン化合物の求核置換反応や脱離反応について説明する。 2) アルケンへの代表的な付加反応について説明する。 3) 共役や共鳴理論、芳香族性の概念について説明する。 4) 芳香族求電子置換反応の反応性、配向性、置換基効果について説明する。				◎			○							○
24UPHM2410	有機化学Ⅲ	2	医薬品や生体内物質の生理活性に密接に関連している有機化合物の性質を理解するため、これを特徴づけている官能基に関する基本的知識を修得し、有機化合物の物理的・化学的性質および反応性を、化合物の構造から類推する能力を身につける。	1) アルデヒド類およびケトン類の基本的性質と反応性を説明する。 2) カルボン酸およびその誘導体の基本的性質と反応性を説明する。 3) 酸性化合物の酸性度および塩基性化合物の塩基性を比較して説明する。				◎			○						○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解					2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/感性				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3							
24UPHM2411	スペクトル構造解析演習	2	医薬品に含まれる有機化合物の品質保証にとって有機化合物の構造の解析は重要な手段の一つである。これまでに学修してきた有機化学の知識を基に、有機化合物の構造解析のための核磁気共鳴 (NMR) スペクトル、赤外吸収スペクトル (IRスペクトル)、マススペクトル (MS) などの機器分析法と、分析スペクトルから有機化合物の構造を推定するための基本的知識を修得する。	1) 有機化合物の構造解析のための機器分析法を説明する。 2) 分析スペクトルから、化合物の部分構造の推定や、候補化合物の中から選択する。 3) 複数の分析スペクトルから得られる情報を組み合わせて、構造未知化合物の部分構造の推定や、候補化合物の中から選択する。				◎			○					○	○	
24UPHM3412	医薬品化学	3	多くの医薬品は有機化合物に分類される。本科目ではこれまでに学修してきた有機化学の知識を基に、医薬品分子の化学構造からその医薬品の化学的性質や物理的性質を理解し、更に医薬品分子と生体分子との相互作用および薬理作用の発現を化学的に理解する。	1) 医薬品分子と生体分子間の相互作用を説明する。 2) 医薬品分子の化学構造から、医薬品の物理的・化学的性質を説明する。 3) 医薬品の薬理作用・代謝を化学構造に基づいて有機化学的に説明する。 4) 代表的な疾患について、各種治療薬の構造的特徴や作用機序を有機化学的に説明する。				◎			○						○	
24UPHM3413	発展有機化学	3	医薬品の多くは有機化合物であるため、薬学を学習するうえで有機化学に関する知識は必要である。本科目では、これまで学修してきた有機化合物の性質・反応性等有機化学の基本的知識を整理し、医薬品を化学的に理解する。	1) 共鳴・電子の動き、反応機構の書き方、各種化学種、軌道など有機化学の基本的事項を説明する。 2) 有機化合物を炭素骨格や官能基ごとに分類し、化合物の化学的反応性・性質を説明する。 3) 立体化学をはじめとする各種異性体について、物理的・化学的性質を説明する。 4) 有機化合物の酸性・塩基性に影響する因子について説明する。				◎			○						○	
24UPHM2414	薬用植物・生薬学	2	自然界に存在する物質を医薬品および医薬品原料として利用するために、基になる薬用植物および生薬の基原、特徴、用途および成分などの基本的事項を修得する。	1) 薬用植物に関する分類や特徴などの基本事項を説明する。 2) 生薬の種類、基原、成分、薬効・用途、確認試験などの知識を修得する。 3) 生薬の同定と品質評価法について説明する。 4) 生薬の副作用や使用上の注意を理解し、説明する。				◎			○						○	
24UPHM2415	天然物化学	2	医薬品、化粧品、機能性食品などに利用される天然有機化合物について、化学構造や生合成経路を基に分類するとともに、医薬資源としての基本的事項を学修する。	1) 代表的な天然有機化合物の生合成経路を説明する。 2) 天然有機化合物を基に開発された医薬品について説明する。 3) 天然有機化合物を基に開発された機能性食品、化粧品、農薬などについて説明する。 4) 天然物を利用した機能性を示す食品について説明する。				◎			○							○
24UPHM1416	分子遺伝学	1	生命情報を担う遺伝子は、生命体の継承に必須であるとともに生命活動の基本となる。生命現象を理解し医療に活用するためには、生命情報に関する分子レベルの知識が必須である。そこで、遺伝子の複製および発現、それらの制御に関する基本的事項を修得する。	1) 染色体とゲノム構造、遺伝子変異と遺伝子型について説明する。 2) 遺伝子の実体であるDNAと遺伝情報発現を担うRNAの構造と機能、遺伝情報の流れとその調節機構について説明する。 3) 生命科学で汎用される遺伝子操作技術について説明する。				◎			○						○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																	
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																	
					1. 知識・理解					2. 技能・表現				3. 思考判断/読解能力								
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3						
24UPHM2601	公衆衛生学 I	2	人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようにするために、現代社会における疾病とその予防や疫学・統計に関する基本的事項を修得する。	1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するための保健統計と、疫学に関する基本的知識を身につける。 2) 健康を理解し疾病の予防に貢献するための生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的知識を身につける。												◎					○	
24UPHM4602	公衆衛生学 II	4	人の健康の維持・増進のために、人の健康を脅かす感染症について、予防策やまん延防止策に関する基本的事項を修得する。	1) 感染症の原因となる病原体とその感染経路、感染症の発生やまん延による社会的な影響・国際的な動向に関する基本的知識を身につける。 2) ワクチンによる感染症予防とその副反応への対応、感染症対策におけるリスクコミュニケーションに関する基本的知識を身につける。				○								◎					○	
24UPHM3603	栄養・食品衛生学	3	食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。	1) 栄養素の種類や健康への影響に関する基本的知識を身につける。 2) 食品の変質およびそれを防ぐための基本的知識を身につける。 3) 食品に含まれる可能性のある有毒物質と健康に及ぼす影響についての基本的知識を身につける。												◎						
24UPHM3604	環境衛生学	3	人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようにするため、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との関わりにおける基本的事項を修得する。	1) 化学物質などの生体への有害作用を回避して適正に使用するための、化学物質の毒性などに関する基本的知識を身につける。 2) 地球生態系や生活環境を保全・維持するための、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的知識を身につける。	○												◎				○	
24UPHM4605	実践衛生化学 I	4	人の健康に関わる公衆衛生、食品衛生、環境衛生などの衛生薬学領域の基礎的な知識を、領域内のみならず基礎薬学や医療薬学と関連付けられる実践能力を修得する。	1) 公衆衛生、食品衛生、環境衛生などの衛生薬学に関する基本的知識を身につける。 2) 衛生薬学とそれに関連する基礎薬学などに関する基本的知識を身につける。													◎				○	
24UPHM6606	実践衛生化学 II	6	人の健康に関わる公衆衛生、食品衛生、環境衛生において、最新の衛生指標および衛生行政の動きに対応できる薬剤師として社会で活躍するために必要な実践能力を修得する。	1) 人口静態、人口動態、生命表、国民の健康状況などの最新の知識を身につける。 2) 生活習慣病や感染症などに対するわが国の行政についての最新の知識を身につける。 3) わが国の生活環境についての最新の知識を身につける。														◎				○
24UPHM2503	基礎薬理学 I	2	薬の効くプロセスを学習するうえで必要な薬物の作用発現にかかわる基本原則を修得する。	1) 作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために、薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識を身につける。 2) 末梢神経系に作用する様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明する。													◎		○	○		○
24UPHM2504	基礎薬理学 II	2	医薬品が作用するプロセスを分子レベルから生体レベルにわたって総合的に理解し、その知識を応用する力を養う。	薬物の作用機序を分子レベルおよび細胞・組織レベルで理解し、医薬品が生体にどのように作用するかということ、末梢神経作用薬を教材にして総合的に理解する。さらに薬物治療に応用する。													◎		○	○		○
24UPHM3505	臨床薬理学 A	3	科学的な根拠に基づき、心臓・血管系（血圧）、泌尿器系、呼吸器系および血液系に作用する様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得する。	心臓・血管系（血圧）、泌尿器系、呼吸器系および血液系に作用する様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明する。													◎		○	○		○
24UPHM3506	臨床薬理学 B	3	科学的な根拠に基づき、消化器系、代謝系および内分泌系に作用する様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得する。	消化器系、代謝系および内分泌系に作用する様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明する。													◎		○	○		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解				2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/対応							
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3				
24UPHM3507	臨床薬理学 C	3	科学的な根拠に基づき、中枢神経系、免疫系、皮膚などの感覚系、その他、鎮痛作用を有する様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得する。	中枢神経系、免疫系、皮膚などの感覚系、その他、鎮痛作用を有する様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明する。					◎	○	○						○			
24UPHM4508	臨床薬理学 D	4	科学的な根拠に基づき、様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得する。	1) 感染症に用いる治療薬について、その感染微生物の性質や病態等と関連付けて、作用機序・特徴・使用上の注意などについて説明する。 2) がんに用いる治療薬について、その病態生理等と関連付けて、作用機序・特徴・使用上の注意などについて説明する。					◎		○						○			
24UPHM6509	疾患からみた薬理学	6	解剖学および生理学を踏まえ、臨床に近い視点から、医薬品とその薬理作用を精査し、薬物治療を成功に導くための病態分析と、薬効を評価する知識・技能を修得する。	1) 様々な医薬品の効果について、俯瞰的・多面的視点からその薬理作用を分析する。 2) 病態の重症度、進行度を解析し、それらに応じて適切な治療薬を選択する。 3) 治療薬の薬理作用を踏まえた上で、治療効果や副作用を適切に評価する。					◎		○									
24UPHM3510	薬物動態学 I	3	患者に応じた医薬品の適正使用を実践するため、薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）に関する基本的事項を修得する。	1) 生体膜透過機構を理解し、薬物の特徴に応じて体内動態を説明する。 2) 薬物動態に起因する薬物相互作用を説明する。 3) 患者の状態（年齢、遺伝的因子、疾患）から、薬物動態を予測する。				○	◎		○	○	○	○			○	○		
24UPHM3511	薬物動態学 II	3	薬物の体内動態を定量的に解析し、患者に応じた最適な薬物投与設計を立案するのに必要な基本的事項を修得する。	1) 薬物動態の解析に関する代表的なモデルを説明する。 2) 血中薬物濃度のデータから薬物動態パラメータを算出する。 3) 治療薬物モニタリング（TDM）の意義と測定法を説明する。 4) 薬物動態パラメータを用いて、患者の状態を考慮した薬物投与設計を行う。				○	◎		○	○	○	○				○	○	
24UPHM3512	臨床統計学 I	3	薬物の治療や効果に関するデータを正確に解釈し、活用するのに必要な生物統計学の基礎的な知識と技能を修得する。	薬物治療や医薬品開発において、疾患・薬効に関するデータや臨床試験データを適切に解析するために必要な統計学的な考え方、データの特徴に応じた解析方法を、実際の事例を通して理解する。				○	◎	○	○	○						○	○	
24UPHM4513	臨床統計学 II	4	科学的根拠に基づく医療（Evidence Based Medicine; EBM）の実践に対して生物統計学を活用するための基礎的な知識と技能を修得する。	医薬品の開発から薬物治療に至る各過程において、より有効で安全な治療や予防実現に向けたアプローチの考案・実行に必要な臨床試験の研究手法と統計解析法を理解する。				○	◎	○	○	○							○	○
24UPHM3514	物理薬剤学	3	代表的な製剤材料の種類（固形材料、半固形材料、液状材料、分散系材料）と物性に関する基本的理論、薬物の安定性（反応速度、複合反応等）に対する影響因子と、安定化のための製剤技術を理解することで、薬物治療において患者に適切な製剤を提供するための基本的知識を身につける。	1) 固形製剤、半固形製剤、液状製剤など、様々な製剤を作成するために必要な製剤材料の種類と物性と関連する基本的理論について説明する。 2) 製剤の調製に際して、薬物および医薬品の安定性等を保証するための適切な方策について説明する。				○	◎			○							○	
24UPHM3515	製剤学	3	日本薬局方製剤総則に示された製剤の種類と特性、投与（適用）方法、保存方法等を理解し、薬物の製剤化に必要な代表的な医薬品添加物、製剤機械および製造工程や、製剤の品質確保のための製剤試験法、更に医薬品の容器、包装の種類や特徴、製剤間での生物学的同等性の保証を理解する。また、DDSの概念とDDSの応用に適した薬物、さらに様々なDDSの特徴を理解して薬物治療に有効なDDSの選択、新たなDDSの開発につながる理論を身につける。	1) 製剤の種類と特性、および製剤の投与（適用）方法、保存方法等を理解し説明する。 2) 医薬品添加物や、製剤機械および製造工程、また製剤の品質確保のための容器、包装、製剤試験法、生物学的同等性について説明する。 3) DDSの概念と技術、薬物の物性や薬物動態学的特徴に基づいたDDSの利用について説明する。					○	◎			○						○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																	
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																	
					1. 知識・理解					2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/感性								
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3						
24UPHM4523	漢方治療学	4	漢方医学の理論を理解し、漢方薬を用いた薬物療法を実践するための知識を修得する。	1) 漢方薬処方方の適応となる証、症状や疾患について説明する。 2) 配合生薬の組み合わせを基に、漢方薬を症状や疾患に適応する根拠を説明する。 3) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して、説明する。					◎		◎											
24UPHM5524	化粧品学概論	5	薬剤師に必要な化粧品に関する正しい知識を修得する。	1) 化粧品と医薬品との違いを、その役割、法律における定義などの点から理解し説明する。 2) 化粧品と皮膚・毛髪の間わりについて理解し説明する。 3) 化粧品に必要な品質、効果などの特性について理解し説明する。 4) 医療における化粧品の役割を理解し説明する。					○	◎												
24UPHM4704	薬学臨床実習概論	4	処方箋に基づいた調剤、薬物治療の実践、多職種連携における薬剤師の貢献、医療マネジメント・医療安全の実践、地域医療・公衆衛生への貢献、臨床で求められる基本的な能力について、幅広い知識を修得する。(本科目は、薬学臨床基本実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを補完する科目である。)	1) 処方箋に記載すべき事項・内容と調剤に関する基本的事項を理解する。 2) 医薬品の供給・管理、特別な配慮を要する医薬品(毒薬、劇薬等)の管理と取扱いを理解する。 3) 市販されている医薬品では対応できない場合の医薬品の調製、使用、品質管理等について説明する。 4) 感染制御に必要な予防策を理解する。 5) 治療薬物モニタリング実施に必要な知識を身につける。 6) 輸液・電解質管理、栄養管理に必要な知識を身につける。					○	◎		◎	○	○								
24UPHM4525	統合型症例・処方解析Ⅰ	4	基礎薬学および医療薬学で身につけた知識・技能を、臨床模擬症例を基にした学修で統合させ、実務実習における個別最適化した薬物治療を行う実践的な能力を育成するための基盤を形成する。	1) 臨床症例を基に基礎薬学および医療薬学の知識・技能を統合して、実臨床に活かすための応用力を身につける。 2) 個々の患者の状態や背景から薬理・病態・薬物治療の全体像を把握する。 3) 各種疾病に対する処方意図や医薬品の適切な使用方法、服薬指導時の留意点について根拠に基づいて討論し、説明する。 4) 個別の症例に対する最適な薬物治療について、根拠に基づいて討論し、処方提案する。	○		○	◎	○		◎	○	○	○	○						○	
24UPHM4705	統合型症例・処方解析Ⅱ	4	基礎薬学および医療薬学で身につけた知識・技能を、臨床模擬症例を基にした学修で統合させ、実務実習における個別最適化した薬物治療を行う実践的な能力を育成するための基盤を形成する。	1) 臨床症例を基に基礎薬学および医療薬学の知識・技能を統合して、実臨床に活かすための応用力を身につける。 2) 個々の患者の状態や背景から薬理・病態・薬物治療の全体像を把握する。 3) 各種疾病に対する処方意図や医薬品の適切な使用方法、服薬指導時の留意点について根拠に基づいて討論し、説明する。 4) 個別の症例に対する最適な薬物治療について、根拠に基づいて討論し、処方提案する。	○		○	◎	○		◎	○	○	○	○						○	
24UPHM4706	薬剤師の臨床判断Ⅰ	4	患者背景または処方内容を適切に把握し、疾患や病状を推測したうえで患者に応じた適切な対応や指導ができる知識・考え方を修得する。	1) 患者に応じた適切な薬学的介入の方法を提案する。 2) 薬物治療を有効かつ安全に実施するために、根拠に基づいた方法や対応を提案する。	○	○	○	◎			◎									○	○	
24UPHM5707	薬剤師の臨床判断Ⅱ	5	患者背景または処方内容を適切に把握し、疾患や病状を推測したうえで患者に応じた適切な対応や指導ができる知識・考え方を修得する。	1) 患者に応じた適切な薬学的介入の方法を提案する。 2) 薬物治療を有効かつ安全に実施するために、根拠に基づいた方法や対応を提案する。	○	○	○	◎			◎									○	○	
24UPHM5708	セルフメディケーション	5	一般用医薬品の適正使用に向けての薬局・薬剤師の役割、位置付けを理解し、実践するための知識を修得する。また、製造業において研究・開発に携わる場合も、一般用医薬品に関する事項を把握する。	1) 一般用医薬品に関連する法令の内容を説明する。 2) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。 3) おもな一般用医薬品を列挙し、使用目的を説明する。					◎		◎	○			○							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解					2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/感性		
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3
24UPHM4709	臨床薬学基本実習Ⅰ	4	薬学臨床実習に先立ち、処方箋に基づいた調剤、薬物治療の実践、多職種連携における薬剤師の貢献など、薬剤師として臨床で求められる基本的な能力を修得する。(本科目は、臨床薬学基本実習Ⅱ・Ⅲを補完するものである。)	1) 処方監査、薬剤の調製、患者対応、服薬指導、疑義照会など薬学的管理を実践する上での基本的業務について理解し、シミュレーションする。 2) 薬物療法、チーム医療、地域医療へ貢献について根拠に基づいて討論する。	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○
24UPHM4710	臨床薬学基本実習Ⅱ	4	薬学臨床実習に先立ち、処方箋に基づいた調剤、薬物治療の実践、多職種連携における薬剤師の貢献など、薬剤師として臨床で求められる基本的な能力を修得する。(本科目は、臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅲを補完するものである。)	1) 処方監査、薬剤の調製、患者対応、服薬指導、疑義照会など薬学的管理を実践する上での基本的業務について理解し、シミュレーションする。 2) 薬物療法、チーム医療、地域医療へ貢献について根拠に基づいて討論する。	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
24UPHM4711	臨床薬学基本実習Ⅲ	4	長期実務実習に先立ち、コミュニケーション(初回面談および服薬指導)、バイタルサイン・フィジカルアセスメントの基礎、治療上患者に必要な手技の説明、症例検討による薬物治療の理解などについて基本的な知識・技能・態度を修得する。(本科目は、臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅱを補完するものである。)	1) 患者情報を適切に収集、評価し、状態を把握したうえで患者教育や服薬指導を実践する。 2) 薬学的管理に必要なフィジカルアセスメントを実践する。 3) 患者の治療に必要な様々な機器の使用法について説明する。 4) 症例を通じて患者の状態を把握し、薬物治療の有効性や安全性を評価し、最適化するための計画立案を行う。	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○
24UPHM4712	臨床実習入門講義	4	薬学臨床実習の直前学習として、チーム医療を含めた薬物療法全般における病院薬剤師業務を理解するとともに、薬局や地域における薬局薬剤師の使命や業務を理解する。	病院や薬局、地域における実践的な薬剤師業務を説明するとともに、業務を行う上で必要な医療倫理について説明する。	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
24UPHM5713	薬学臨床実習	5	実務実習を通じて、薬学臨床の基礎を十分に学習し、処方箋に基づく調剤、代表的疾患の薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉へ参画など、幅広い薬剤業務を実践するために必要な知識・技能・態度を修得する。	1) 実務実習にふさわしい心構えを持ち、処方箋に基づく調剤・疑義照会、服薬指導、患者対応・教育、医薬品(麻薬・向精神、特性生物由来製品)の管理、抗悪性腫瘍薬や各種注射剤の調製を行う。 2) 患者状況にあわせた処方提案やチーム医療・地域(在宅)医療へ積極的に貢献する。	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
24UPHM5714	臨床実習後演習	5	臨床実習で学んだことを振り返り総括するとともに、自身の経験を大学において他者と互いに共有する。これにより、臨床実習での個別事象の学びを一般的に理解し、個別最適化した薬物療法を実践するために必要な課題を発見し、解決策を導く力を身につける。	1) 臨床実習での学びを基に、与えられた模擬症例などに対して、個別最適化した薬物療法を実践する。 2) 患者のニーズを把握し、患者にとって効果的な情報提供を行う。 3) 自らが臨床実習で経験した内容で、効果的であったこと、改善が必要であったことなどを大学内で互いに共有し、個別最適化した薬物療法の実践について討論する。	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
24UPHM2801	薬学基礎実習A	2	医薬品を含む目的化合物への化学変換を自分自身の手で実施するために、これまでに習った有機化学の理論・法則・反応などを理解し、有機合成反応の基本的知識、技能、態度を修得する。化学実験の基本操作を修得する。すなわち、実験器具の名称、使用方法について学び、実験器具を正しく選択して装置を組み立てる。併せて、実験を通して実際に化学物質に触れ、化学的あるいは物理的性質を知り化学物質の正しい取り扱い方法を学ぶ。	有機化合物の代表的な反応、分離法、構造決定法などについての基本的知識を整理し、それらを実施するための基本的技能を修得する。課題となる有機反応に関して、有機化学の講義による知識と実験操作に関する知識を活用して実験計画を立て、自ら実験装置を組み立てて反応を実施する。得られた結果をまとめ、化学的に考察する。										◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/感性					
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	
24UPHM2802	薬学基礎実習 B	2	実験を通して化学物質の物理化学的性質に関する理解を深め、物理化学的性質を解析するための技能を修得する。	1) 薬学および生命科学に関する化学物質の物理化学的性質を測定する。 2) 薬学および生命科学に関する化学物質の物理化学的性質の測定データを解析し、論理的に考察する。			◎				◎	○				◎	
24UPHM3803	薬学基礎実習 C	3	自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようにするために、基になる薬用植物や生薬、それらの活性物質の取り扱いを修得する。また、生体の構造とその機能調節の仕組みを統合的に学修し、生命に対する倫理的な姿勢を養う。	1) 代表的な薬用植物の特徴を理解し、分類や利用法について説明する。 2) 代表的な生薬について、基原、特徴、成分、確認試験法等を用いた同定や品質評価を説明する。 3) 天然有機化合物の抽出および分離精製法を説明する。 4) 複数の機器分析法を組み合わせた天然物の構造解析例を説明する。 5) 生体を構成する器官の立体的位置関係を把握し、その構造と組織・細胞を関連づけて説明する。 6) 器官の生理的機能について、生体における役割と調節機構を体系的に説明する。			◎				◎	○			◎	○	
24UPHM3804	薬学基礎実習 D	3	化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、分析器具の取り扱い方法、化学物質の定性分析法、定量分析法および分離分析法の技能を修得するとともに、臨床現場で用いる分析技術を応用するための技能を修得する。また、生命現象を細胞や分子レベルで理解するために、実験を通して生体構成分子や免疫反応の基本事項を修得する。	1) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析を実施する。 2) 溶液のpHを測定するとともに、緩衝液を調製する。 3) 日本薬局方記載の代表的な医薬品のクロマトグラフィーによる定性・定量を行う。 4) 生体構成分子の定性または定量試験を実施する。 5) 酵素反応速度を測定し、解析する。 6) 抗原抗体反応を利用した検査方法を実施する。			◎				◎	○			◎		
24UPHM3805	薬学基礎実習 E	3	薬剤師および薬学系業務等を行う上で必要な、基本的な微生物の取り扱い方法を身につける。また、製剤化の方法と意義、薬物動態の理論的解析と投与設計に関する基礎的スキルを修得する。	基本的な微生物の取り扱い方法として、無菌操作、微生物の培養およびグラム染色等の技能を身につける。また、製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を応用する技能を身につける。			◎	○	○	◎	○					◎	○
24UPHM3806	薬学基礎実習 F	3	薬理学の講義で学修した薬物の作用に関する知識を動物実験を通して実際に確かめる。また、食品、水、空気などに含まれる有害因子を実際に測定する基本的な実験方法を修得する。	代表的な実験動物の倫理的に配慮した適切な取り扱い方、薬物投与方法を身につけるとともに、末梢神経系および中枢神経系に作用する薬物の薬効薬理試験を実施し、薬理作用（主・副作用）に関する知識を総合的に修得する。また、中毒原因物質の分析法、水の分析法、室内環境の分析法、食品の変質試験法などの基本的スキルを身につける。			◎	○	○	◎	○		○			○	○
24UPHM5108	発展英語 II	5	薬学分野では、研究や臨床において英語の文書を理解し、英語で文書を作成する必要がある。本科目は、英語を研究ツールとして使用するための技能を修得する。	各自の研究分野に関連する最新の英語論文を選別し、内容を把握するとともに、それをわかりやすく説明する。			○	○	○		○	◎				◎	
24UPHM5109	薬学英語演習	5	本科目は、グローバルな薬剤師として活躍するための国際感覚を養成し、英語力のレベルアップとともにアメリカにおける薬剤師の役割および活躍分野を学ぶ。	1) 聞く、話す、読む、書くのスキルを磨き、英語で自らの考えや感じたことを発信できるようになる。 2) アメリカの薬剤師・研究者の活躍分野を見聞し、グローバルに活躍できる薬剤師を目指す。			○	○			○	○			○	○	○
24UPHM4807	卒業研究 I A	4	将来、薬剤師として薬学・医療の進歩と改善に資するため、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。	研究室に所属して、研究課題の見つけ方、情報収集や研究方法、研究結果のプレゼンテーション法などを修得する。	○	○	○	○	○		◎	◎		○	◎	◎	
24UPHM4808	卒業研究 I B	4	将来、薬剤師として薬学・医療の進歩と改善に資するため、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。	研究室に所属して、研究課題の見つけ方、情報収集や研究方法、研究結果のプレゼンテーション法などを修得する。	○	○	○	○	○		◎	◎		○	◎	◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解					2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/感性					
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3								
24UPHM5809	卒業研究Ⅱ	5	将来、薬剤師として薬学・医療の進歩と改善に資するため、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。	薬学領域の知識・技能・態度を総合的により深く相互の有機的繋がりをもって理解する。	○	○	○	○	○						◎	◎	○	◎	◎
24UPHM6810	卒業研究Ⅲ	6	将来、研究者として、科学の進歩や技術の開発に貢献するための基礎的能力や、次世代を担う人材を育成するための意欲や態度を身につけることを目的とする。	1) 研究課題を通して、科学的根拠に基づいて問題を解決し、社会に公表する能力を身につける。 2) 研究倫理を理解し、それを生涯にわたって高め続ける知識、技能、態度を身につける。	○	○	○	○	○						◎	◎	○	◎	◎
24UPHM4715	総合演習ⅠA	4	病院や薬局での実務実習において、医療・福祉・介護・保険などにかかわるために必要な知識を身につける。	社会と薬学、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学の各領域における基礎的知識を偏りなく、高い到達度で修得する。	○	○	◎	◎										○	○
24UPHM4716	総合演習ⅠB	4	病院や薬局での実務実習において、医療・福祉・介護・保険などにかかわるために必要な知識を身につける。	社会と薬学、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学の各領域における基礎的知識を相互の繋がりをもって総合的に深く理解する。	○	○	◎	◎										○	○
24UPHM6204	総合演習Ⅱ	6	卒業後、薬剤師として人々の健康や福祉に貢献するために必要な薬学の知識を十分に身につける。	社会と薬学、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学の各領域における専門的知識を偏りなく、高い到達度で修得する。	○	○	◎	◎										○	○
24UPHM5901	プレプロフェッショナル教育	5	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得る。	1) 専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考える。 2) 共通科目においては理系(科学)英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 3) 実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 4) 本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向(分野)を考え、将来のキャリア形成の一助とする。	○	○										◎			